

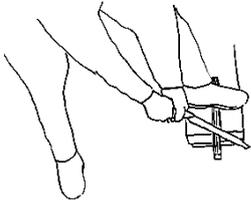
間伐材でスプーンづくり



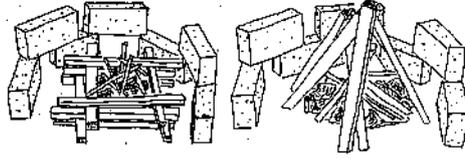
活動場所	実習棟、交流広場	自然の家にあるもの	薪(有料)、スプーンセット(間伐材+スプーンの先、有料)皮軍手、耐火レンガ、火ばさみ、金ブラシ、網
所要時間	2時間程度	利用者で用意するもの	軍手(ゴムの滑り止めのないもの)、新聞紙、布、マッチ、うちわ
人数	100名程度	活動時の服装	長袖、長ズボン(綿素材のもの)、軍手(ゴムの滑り止めのないもの)、帽子、マスク

既製品ではなく自然の中からものを作り出す工夫と体験が、いざという時に焦らずに、災害時、そして困難な時にぶつかっても適応する力に繋がります。本プログラムでは、間伐材に焼き入れを施し、スプーンの柄にします。焼きが入った柄は耐久力があります。また、本プログラムで作ったスプーンを用いて2日目の野外炊事に使用することもできます。

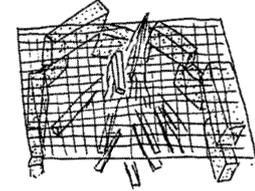
間伐材でスプーンづくり



①間伐材を 15 c m に切ります。



②かまどを用意します。井げた型かピラミッド型がおすすめです。



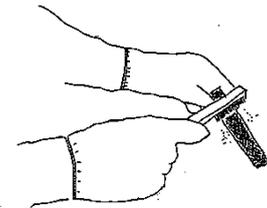
③火が起きたらあみをのせ、切った間伐材をあみの上に置きます。5 分くらいで焼けます。



④全体をまんべんなく黒く焼きましょう。



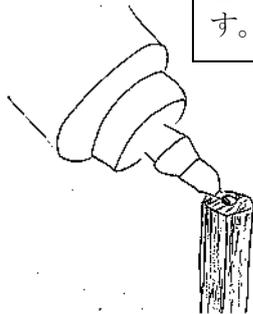
⑤黒く焼けた間伐材を火ばさみではさみ、地面に置いて、足で砂をかけ、60 秒間待ちます。



⑥金ブラシでススを落とします。



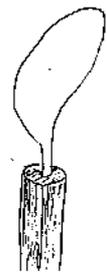
⑦先生や自然の家の所員の方に電動ドリルで穴を開けてもらいます。



⑧ボンドを穴に注入します。



⑨スプーンの先を穴に入れます。



⑩2 時間乾燥させたら完成です。

特に大切なこと

- ①火を扱う学習です。先生や自然の家の職員の説明をしっかりと聞きましょう。
- ②焼き過ぎるとスプーンの柄が小さくなるので、④の写真くらいになったら火ばさみではさみ、足で砂をかけましょう。

1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・火の起こし方を知り、火を起こす技術を身につける。また、起こした火を用いて木材を加工し道具を作りだす体験を通して、災害時でも工夫する態度の大切さに気づく。	総合的な学習	「防災」

2. ポイント

ア) 活動前

- ・ビニール、ナイロン素材の服は火の粉で穴が開くので綿素材の服を着用する。
- ・軍手は綿100%のものを用意し、ゴムなど引火しやすいものがないものとする。
- ・電動ドリルは自然の家に2台ある。台数を増やす場合は各団体に持参する（ドリルの先は自然の家にある）。

イ) 活動中

- ・薪の束の運搬は、軍手を着用するように指導をする。
- ・焼きすぎて燃えつきてしまわないように指導する。
- ・残った切れ端は、焼いて箸置きなどにも利用できる。
- ・ポンドをいれて完成したスプーンは紙コップなどに入れ名前を記入し、乾燥させておくと分かりやすい。
- ・火を扱う時は皮手袋を着用させる。

ウ) 活動後

- ・使った道具は元の場所に戻す。
- ・レンガには決して水をかけない（熱いレンガに水をかけると割れるため）。
実習棟裏のスコップ、ちりとり、一輪車で、燃えた灰等は、灰捨て場へ運んで水をかける。灰捨て場は実習棟裏手にある（確認しておくこと）。
- ・レンガはしばらく熱いままなので、冷めたことを確認してから指導者の指示で片付けを行う。
- ・レンガは重いので、気を付けて運ぶように指導する。

3. 安全対策について

--